

第1回・第2回「丹後地域における府立高校の在り方懇話会」における 主な意見【概要】

<府立高校と地域との結びつき>

- ・後継者問題が課題。今後は普通科でも地元産業の在り方についての教育を行ってほしい。
- ・将来的に丹後での就職につながるよう、高校生段階で地元ですばらしい企業があるということを知ってもらう取組を普通科などでもカリキュラムに組み込んでほしい。また、高校の学びの中で、地元理解の促進や行政への参画といった取組ができないか。
- ・製造業は人手不足だが、高校生に求人を出しても来てくれない。少子化による人材不足により、産業構造の在り方が変わる。より一層密に企業と高校とが連携していく必要がある。
- ・高校の専門学科で育てても、地元を受け入れられる素地があるのか。魅力ある産業があれば、子どもたちは帰ってくる。府や市町も一緒になって魅力ある産業をつくるのが大切である。
- ・一市町だけで人材を確保し、就労先を斡旋するには無理があり、現在、五市二町で連携し、住まいや就労先の確保にも取り組んでいる。丹後地域全体で子どもを育て、丹後地域に帰ってきてもらうという面的な関係を重視して協議していく必要がある。
- ・行政も移住・定住策や就労支援、産業の人材育成などに取り組んでいるところであり、高校がなくなると市町政の推進に水を差すことにもなる。結論ありきで高校の再編を進めず、議論をしながら関係者が様々な努力をすべきである。
- ・企業や地域と学校、あるいは学校間を結ぶコーディネーターが必要である。職業学科単体で学べる時代ではなく、企業や地域、学校等が一体となって生徒を育てることが大切である。

<地域において求められている学びや教育環境の整備>

- ・農業が産業として成り立つような教育を高校で行ってほしい。
- ・農業や林業、工業だけでなく、看護や介護などの分野も含め、今後地域にどのような学科が必要なのかを改めて考える必要がある。
- ・丹後地域では高校が最終の学校であり、地域に貢献し、地域の水産や農業などの産業や地域の文化や財産を守っていくための技術を継承する学科等の設置や再編を工夫してほしい。
- ・中学校卒業後に進学して看護などの資格を取れるような学科も検討してはどうか。また、海洋高校には、漁業において役立つレーダーやソナーなど様々な資格の取得を期待する。
- ・農業を担う人材を育成する農業科があっても良いのではないかと。将来職に就ける具体的なイメージが持て、就職に繋がるような専門学科を考えてほしい。
- ・専門学科間の連携に視点を置いた取組を充実させていきたい。
- ・どのような学科を置くのかについては学校だけで考えるのではなく、地域産業の実態や今後の中長期的な展望も見据えて、様々な情報も得ながら長期的な展望で考えるべきである。
- ・国公立大学に進学できる力をつける学科が必要である。
- ・保護者としては少子化による教育の質の低下については看過できない。「この地域に生まれたから辛抱しなければいけない。」というようなことは子どもには言えない。また、志を持って進学をする子どももいるので、より継続的で安定的な間口を持ってほしい。
- ・子どもたちが希望を持って高校に行ける環境を大人がしっかりとつくる必要がある。

- ・進学した高校に、見習えたり、憧れを抱ける教員やコミュニケーション能力、ソーシャルスキルを備えた教員がいて、生徒は高校生活を快活に過ごし、何ごとにも意欲的に取り組む。高校の教員は生徒にとって、魅力ある教員や部活動の指導者であってほしい。
- ・困難家庭や貧困家庭が増えていることで、小学校低学年における学力面や生活の自立面での課題が年々顕著になってきている。また、発達面で課題のある児童も増加傾向にある。保幼小中高の学びの連続性を維持し、指導の質を高めていく中で、魅力ある高校生活や一人一人の生徒の将来目標、社会的自立に向けての方向性が見えてくるのではないかな。
- ・小規模校でも十分に目配りや気配りができる京都式の定数配置を行うなど、安心して高校に進学させられる体制づくりが必要である。
- ・高校生の体力や心のことを考えると、1時間程度の通学時間であれば通学範囲ではないか。スクールバスの導入や全寮制についても検討してはどうか。
- ・駅から離れている高校については、駅と高校間を送迎する手段を整備してほしい。また、公共交通機関との連携等により、安全に、安い単価で通学できるようにしてほしい。
- ・再編により遠隔地から通学する生徒が生じる。府教委が責任を持って公共交通機関との連携やスクールバスの整備など通学手段を確保するとともに、通学費を無償にするなどの補助制度も整備すべきである。その際、公立高校生だけでなく私立高校生も対象としてほしい。

<地域において求められている学び（多様な学びの場の保障）>

- ・中学校の特別支援学級で学ぶ生徒の多くが高校に進学している。京都式インクルーシブ教育システムをこの北部地域から具体的な形で発信するということが構想の中に入れてほしい。
- ・高校は適格者主義のもと、その学校で学べる能力のある子どもたちを入学選抜等を経て受け入れるべきであるが、分校には志願者が定員に充たない状況や保護者の希望などにより、様々な課題等のある生徒が入学しており、指導に苦慮している。そうした課題なども検証しながら、高校教育の在り方全体として考えていく必要がある。
- ・不登校経験のある生徒や発達障害のある生徒、特別支援学級に在籍していた生徒などの学びの場として、分校の果たしている役割は大きい。子どもたちの多様性や発達に応じ、子どもたちが希望して学び、子どもたちに応じた教育ができるような学びの場をつくってほしい。
- ・同一敷地内にある八幡支援学校と京都八幡高校南キャンパスでは様々な連携した取組が進められている。特別支援教育の観点や与謝の海支援学校の移転のことも含めて検討してほしい。
- ・宮津・与謝地域にも定時制高校は必要である。伊根分校を全面改築して存続するか、通学に十分配慮した上で、一市二町のどこかに分校機能を果たし得る同等の施設を確保してほしい。

<他地域から生徒を呼び込む方策>

- ・この地域に魅力を感じ、海洋高校のように他地域から来てもらえるような高校ができないか。他地域から来てみたくなる高校や学科についての議論も大切である。
- ・例えば、地域に住む祖父母のもとに孫と一緒に住んで地域の高校に通うことを認めるなどして、生徒を増やす努力をする必要があるのではないかな。
- ・体育系部活動を強化して全国大会出場などの実績をベースに生徒を集めている高校もある。全国募集は難しいとは思いますが、難しくても努力して取り組むべきである。

- ・ 府立大学や私学・国公立大学の附属高校にすることで、大学受験を気にせず高校で勉強や部活動等に打ち込めることは魅力となるのではないかな。
- ・ 他地域から来てもらうということは、こちらからも出て行く可能性があるということも想定する必要がある。

<新しいタイプの高校の設置>

- ・ 職業に関する学科の単独校を設置し、専門的な知識を身につけて社会に送り出したり、大学等に進学した後に戻ってくるような体制をつくってほしい。
- ・ 府立清明高校を見学したが、すばらしい教育が行われており、大変羨ましかった。北部地域にもこういう高校があればと思う。南部地域での様々な取組の実施や他地域から丹後地域に来てでも学びたいと思うようなコース設置など、多様な教育機会を提供してほしい。

<中学生の進路選択>

- ・ 高校入学後に柔軟にカリキュラムやコースなどを選択できるようなシステムが理想ではないか。また、専門的な学科にも様々な選択ができるカリキュラムがあった方がよい。
- ・ すべての中学校3年生が高校の教育内容や学科の内容をしっかりと理解できているわけではない。目的を持って学科や高校を選択する生徒もいるが、全体としては普通科志向が強い。
- ・ 次年度の中学校3年生は900名台と今年度比で約180名減少する。「こんな状況なら勉強しなくても高校に入れる。」と生徒が思うようなことだけは避けたい。高校入学だけが目的ではないが、確かな学力や将来にわたって学習する力をつけることが中学校教育の目標である。
- ・ 中学校卒業生に対する求人はなく、縁故就職などを除けば、すべての生徒が進学を考えなければならない。自分の将来を見据えて高校選択を考えている生徒が少ない中、この地域は交通面が必ずしも便利でないため、通学可能な範囲で高校を選ぶ生徒が多いのではないかな。
- ・ 保護者の立場からすると、できれば高校までは自転車やバスで通える高校に通わせたい。ただ、近くの高校に入りたい学科があるかどうかという点は課題である。

<教育の質を確保していくための学校規模・学校再編の考え方>

- ・ 一定の大きさがないと学校の様々な機能が果たせない。現在の規模で全校は維持できないのだから、統合・廃止等も必要ではないかな。一方で、分校では小さいが故にきめ細かな教育ができている。大きな集団に入りにくい生徒が、小さな集団の中で個性をしっかりと発揮し、充実した高校生活が送れるような環境を整えることも我々の務めである
- ・ 学校規模が小さくなると希望する部活動ができないといったことが生じる。子どもたちが夢や希望を育む環境を整えるのも我々の責務である。
- ・ 希望を持って進路選択ができるように環境を整えることが使命である。高校3年間で良い友に出会い、学んだと実感でき、多様な能力が発揮できるシステムをつくってほしい
- ・ 高校で様々な体験をすることが大切である。丹後の高校だからこういう教育しかできないということではなく、ある程度大きな学校で、授業が選択でき、仲間と切磋琢磨しながら部活動に取り組めるなど、様々な教育活動や人間教育が経験できるようにする必要がある。

- ・様々な思いがある中、一番に優先されるべきは子どもたちである。早く方向を示し、教育環境を整える必要がある。検討する間に子どもたちが取り残されないようにしてほしい。
- ・一定の規模が確保できる体制は必要だと思う。学校がなくなると地域がすたれるといった声はあるが、実際に通う子どもたちのために取り組むということを目的として検討してほしい。
- ・各地域に拠点となるような一定の学年規模・生徒数をもった普通科を中心とした高校を整備するとともに、高校で分担する形で、野球やサッカー、バスケットボール、バレーボールなどの部活動に指導技量が高く、情熱のある指導者を配置してはどうか。
- ・中期選抜の志願者数をみると、定員を割っている学科が多い。募集定員を減らして各高校が生き残っていくのではなく、学科や高校を整理していく必要があるのではないか。
- ・社会人基礎力や人との関わりで培われる様々な貴重な力を身に付けさせ、本府を支える人材を育成するためには学年4学級160名は必要である。4学級が無理なら少なくとも3学級120名程度であればと思う。高校を整理して、集団で活動し、ライバルと競い合うことが可能な環境にすることが、地域を支える人材の育成につながるのではないか。
- ・規模が大きければ良いとは思わないが、互いに切磋琢磨したり、多くの人の意見を聞いて子どもたちは成長していくといったことを考えると、積極的に再編について考えるべきである。
- ・生徒数減少も踏まえ、私学1校、海洋高校、宮津高校、峰山高校の設置を望む。その上で、宮津・峰山高校では、普通科などにおいて、地域の自然や伝統を活かした教育内容や、福祉や看護、医療などの教育、様々な分野の資格取得などを目指してはどうか。また、両校に分校を置き、清明高校のようなシステムを構築してほしい。
- ・生徒数が減少し、1つの高校に普通科と職業学科を置くことが難しいのであれば、普通科や職業学科をそれぞれ集約した高校なども考える必要もあるのではないか。
- ・様々な学校教育活動を充実させるためには、個人的な教員の指導力だけではうまくいかない。教員がチームを組み、各教員の特性や持ち味を活かしながら、個々の生徒の成長を指導していく必要があるが、そのためにはある一定の規模が必要である。
- ・教員が切磋琢磨できる教員集団が保てる規模が必要である。また、若手教員が増えている中、若手が学べる年齢的な組み合わせも必要である。

<府立高校と私立高校の関係>

- ・公立高校と私立高校が共存して、それぞれの建学の精神に合った自由な校風で子どもたちを導いてもらいたい。互いに切磋琢磨してほしい。
- ・丹後地域では昔から公立志向が強く、公立しか高校ではないというような地域の中で、地域の唯一の私学として小さいながらも貢献しているということも意識して検討してほしい。

<検討スケジュール等>

- ・小・中学校の再編を進めてきた経験上、懇話会を経て6月頃に案をまとめ、8月に方向性を出すには無理があり、乱暴なやり方はいかかかと思う。結論ありきで進めず、地域の方に説明する機会を持つなど、保護者等にある程度理解していただけるような方法を考えてほしい。
- ・方向性が決まった後、方向性にそった内容が実行されるまで準備期間が2年間程はかかることだが、中学校としてはその間の生徒減少にはどう対応するのかも気がかりである。